

第2回保育士ワークショップ 開催報告

（出席者） 保 育 士：15名
事 務 局：4名（総合戦略室）
オブザーバー：2名（酒向参事、山田こども課長）
ファシリテーター：1名（ジャパン総研）

1 次第

- 18：00 開会あいさつ、趣旨説明
18：15 グループワーク
美濃加茂市の保育現場における「子どもの育ち」「保護者への支援」の課題解決に向けて、自分たちでできること、その他お願いしたいことについて自由に意見交換する。
19：15 各グループの成果発表
19：30 閉会あいさつ、事務連絡

2 開催結果

（1）グループワークの発表

【Aグループ】

課題①発達が気になる子どもの増加

「自分たちでできること」は、保育士間で気になる子の情報を共有することや、発達が気になる子への対応の仕方の引き出しを増やしていくために、研修に参加したり先輩の保育士さんから意見を聞いたりして、自分たちで知識を勉強していくことである。「その他協力をお願いしたいこと」では、カナリヤの家の方が毎月1回保育園に来て教育支援をしてくださっているが、時間等の都合で一人程度しかみてもらえないため、なるべく他の子ども達もみてもらえるよう機会を増やしてほしい。また、カナリヤの家だけでなく他の専門機関との連携を充実させていくことや、研修をもっと増やすという意見が出た。



課題②子どもたちがのびのびと遊べていないについて

遊べる時間の確保は保育内容の見直しにつながっており、子どもの発達のために何がベストなのかを考えて話し合っていく。行事も見直し、子どものために何が一番必要か話し合う必要がある。また、異動などにより新しい勤務先で公園や遊べる環境がどこにあるのか知らない先生もいるため、園の周りの環境について学び、自分たちで探しに行くことも必要である。「その他協力をお願いしたいこと」

では、保育士を増員すれば、しっかり見守りができ、子どもたちが安全に遊べるのではないかという意見が出た。

課題③外国籍の子ども・保護者への対応

「自分たちでできること」として、生活に必要な簡単な外国語を覚え、生活習慣も保護者と会話しながら学んでいくという意見が出た。「その他協力をお願いしたいこと」では、通訳の方を各園に入れてもらえれば、子どもとの意思の疎通ができるし、保護者とも連携がとれる。また、外国籍市民専用のメール配信ができるとよいのではないかと。また、外国語を学べる環境をつくるという意見が出た。

課題④保護者の子育て能力・意識の低下

保護者とのコミュニケーションを一番大切にしたいということで、直接お母さんと会話をする時間をもっと増やすという意見が出た。さらに、保育参加を充実させ、お母さんと子どもの関わる時間を増やせばもっと子育てに意識をもってもらえるのではないかと意見が出た。「その他協力をお願いしたいこと」は、就園直前に保育士と一緒に保育園にスムーズに入れられるように支援できるとよいという意見が出た。



課題⑤仕事と子育てへの両立支援のニーズ増加

保護者の仕事も大事だが、低年齢の時期は子育てにとって本当に大切な時期だということをもっと伝えていく必要があるのではないかと。「その他協力をお願いしたいこと」は、保育士が少ないと大変になってしまうので、保育士を増やしていくことが必要ではないかという意見が出た。

【Bグループ】

課題①発達が気になる子どもの増加

「自分たちでできること」は、職員間で気になる子について共有し、共通理解していくことが大切であるという意見が出た。気になる子について本や研修などで勉強し、一人一人にあった支援をする。発達が気になる子の中にも本当に障害がある子もいるし、中には経験不足のために集団の中で困っているという子もいるので、その子にあった支援の仕方を保護者に伝える。「その他協力をお願いしたいこと」では、1歳半健診や3歳児健診を活用して、情報をたくさん共有していくことが大切である。自己学習や話し合い、研修をするにしても時間の確保が必要である。一つの園に支援の必要な子が増えてきているため、支援学級のようなものを設置するというのも一つの方法ではないかという意見が出た。



課題②子どもたちがのびのびと遊べていないについて

行事を見直して時間を確保していけるとよい。外遊びや散歩がなかなかできていないが、散歩から学べることがあったり体力がついたりということもある。「その他協力をお願いしたいこと」は、自然がいっぱいある遊び場へ何度も行けるよう専用のバスがあればよい。園庭に築山を作って、自然で遊

べる環境をつくる。保育園で遊ぶということは、少しぐらいケガもするし服も汚れるということを保護者が認識することも必要である。また、保育士だけではなく第三者から子育てについての話をしてもらうのも一つの方法ではないかという意見が出た。

課題③外国籍の子ども・保護者への対応

言葉が通じない分、手取り足取り個別の声掛け・援助をしていく必要がある。また、身振り手振りでは伝わらないところがあるため通訳が必要である。さらには必要な外国語の単語を教えてもらい、保育士も学ぶ必要がある。外国籍の子どもがとて多かたり、クラスに一人いるとその子にかかりっきりになってしまったりするため、外国籍の子だけのクラスがあってもよいかもしれない。保護者に対して日本語を学んでもらう機会をつくるのもよいのではないかという意見が出た。



課題④保護者の子育て能力・意識の低下

発達にあった遊びを紹介したり、子どもとの関わり方を知らせたり、園でやってできたことをその都度伝え、家でやってほしいことも伝える。子育て講演会や支援センター、児童館などで行われるイベントに来られる方は毎回同じで、来てほしい人はなかなか参加されない。参加率のアップを図る必要があるという意見が出た。

課題⑤仕事と子育てへの両立支援のニーズ増加

休みの日に子どもたちと十分関わってもらえるような声掛けや遊びの提案をする。「その他協力をお願いしたいこと」では、人的・物的・環境的に低年齢児保育に対応できる設備と保育士の増加が必要という意見が出た。

【Cグループ】

課題①発達が気になる子どもの増加

「自分たちでできること」は、発達が気になる子への関わり方や障害について理解することが重要で、学んだことを園内全体で共通理解し、気になる子に対して適切な支援を実行する。「その他協力をお願いしたいこと」では、保健センターの保健師さんと健診時の情報を公開・共有すること。カナリヤの家や園と協力し、保護者への啓発を行う場を設けてほしい。支援学校や病院との連携が十分とれればよい。また、保育園に専門知識のある職員を配置してもらえれば心強いという意見が出た。



課題②子どもたちがのびのびと遊べていないについて

なぜ子どもたちが遊べていないのか分析する必要がある。時間がないのか場所がないのか、保育士が足りないのかを分析した上で、時間と場所を工夫しながら確保することが保育士として大事ではな

いか。その中で、行事を見直したり職員の配置を考えたりしていくのがよいのではないか。「その他協力をお願いしたいこと」では、公園等地域資源の利用が重要で、里山の整備や森のようちえん、川遊びなど地域の資源を活用していればよいという意見が出た。

課題③外国籍の子ども・保護者への対応

保育士が言葉と文化を学んでいく。その中で信頼関係をつくり、保護者にも分かりやすい手紙の出し方を工夫する。「その他協力をお願いしたいこと」では、通訳を派遣して頂けるとありがたいという意見が出た。

課題④保護者の子育て能力・意識の低下

クラス便りや園便りで親子遊びの場を提供したり、子育ての大切さを知らせたりするなど、保育士から発信していく。その上で親と話し合ったりして支援をしていくことが大切である。「その他協力をお願いしたいこと」では、子育てについての啓発を行うということである。「フロム 0 歳プラン」などを活用してもらおうという意見が出た。



課題⑤仕事と子育てへの両立支援のニーズ増加

その子の良さががんばっている様子などを伝えていければよい。「その他協力をお願いしたいこと」では、企業へ勤務時間の短縮化、育児休業や休みを取りやすくするなどの啓発を行う。子育て世代への経済的な支援をして頂くことや保育園の環境整備・手続き、保育士の増員があれば、保護者も安心して保育園に預けられるのではないかと意見が出た。

(2) グループワークの結果

【Aグループ】



発達が気になる子どもの増加

◎自分たちでできること

- ・保育士間で子どもについて情報交換する
- ・発達が気になる子への対応の仕方の引き出しを増やしていく

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・気になる子の対応や支援方法などを専門機関などと協力して考えていく（カナリヤの家は月に一度だが、もう少し多くしたり継続的に子どもをみていけるように）
- ・カナリヤの家相談窓口を増やしてほしい
- ・今後共、カナリヤの家など専門機関との連携を充実させていく
- ・カナリヤの家の先生と保護者と関われる時間をつくる
- ・気になる子への支援方法を学べる機会を多くつくる

子どもたちがのびのびと遊べていない

◎自分たちでできること

- ・子どもたちがのびのびと遊べる時間の確保（散歩の機会を増やす）
- ・行事の見直し
- ・子どものために何が一番必要か話し合う
- ・保育内容について、何が子どもの発達のためにベストなのか、話し合っていく
- ・園の周りの環境について学ぶ。公園や遊べる環境がどこにあるのかなど

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・保育士を増員すれば子どもたちの安全をしっかりと見守ることができるので、限定しなくてものびのび遊べる

外国籍の子ども・保護者への対応

◎自分たちでできること

- ・外国語はもちろん生活習慣も理解する
- ・簡単な言葉（単語）などを知る
- ・簡単な外国語を覚える（単語、生活に必要な言葉）

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・通訳の方、常時でなくても定期的に各園に来てもらえるとよい
- ・各園に通訳を入れていく
- ・外国籍市民専用メール配信など
- ・通訳が各園に1人入る
- ・外国語・習慣（簡単な単語）を学べる環境をつくってほしい

保護者の子育て能力・意識の低下

◎自分たちでできること

- ・保護者との会話を大切にする（時間をつくる）。相談しやすい環境、対応をしていく
- ・保育参加の充実。実際に子どもの発達を見てもらえる機会が増えれば

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・就園前の子育て相談・窓口（できれば保育士が対応する）をつくる

仕事と子育てへの両立支援のニーズ増加

◎自分たちでできること

- ・低年齢の今の時期の大切さを保護者に伝える（仕事も大事だが）

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・保育士の増員

【Bグループ】

発達が気になる子どもの増加

◎自分たちでできること

- ・園内の職員での話し合い。共通理解の時間をとってその子のことについて話し合い、一緒にみていく
- ・気になる子（発達障害）について勉強する（本、研修、話し合いなど）
- ・一人一人にあった支援をしていく
- ・保護者支援をしていく

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・入園前の子どもの状況（1歳半健診、3歳児健診）や診断の判定を知らせてもらう
- ・入園前の子どもの状況（1歳半健診、3歳児健診）を知ったり、情報を共有する
- ・研修時間、話し合い時間の確保
- ・療育の先生などに来園してもらう
- ・支援クラスの設置
- ・各園に支援クラスを設置またはカナリヤの家の先生のような療育のできる先生を配置

子どもたちがのびのびと遊べていない

◎自分たちでできること

- ・行事等の見直しを行い、遊ぶ時間を確保する
- ・外遊び時間の確保
- ・外遊び時間を確保する（散歩）。製作活動の時間などの見直し

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・自然の中で遊べる場所の確保。市の保育園。そこに何度も行けるような交通手段（バス、全園所有）
- ・園庭に築山を作る
- ・保護者に少しぐらいのケガや服の汚れへの理解
- ・第三者から子育てについての話をしてもらう

外国籍の子ども・保護者への対応

◎自分たちでできること

- ・個別の声かけ
- ・個別の援助
- ・簡単で必要な会話や連絡の仕方の言葉の勉強

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・通訳できる人が週に1回ぐらい園に来てほしい
- ・外国児クラスをつくる
- ・簡単な単語・会話文のシナリオを作る
- ・外国児担当の保育士が必要
- ・日本語の手紙の内容が伝わるよう訳してもらう。また時々通訳をお願いしたい
- ・保護者に日本語を教えるもらう

保護者の子育て能力・意識の低下

◎自分たちでできること

- ・発達にあった遊びの紹介
- ・子どもとの関わり方を知らせていく
- ・園でやってできたこと、支援の方法を具体的に保護者に伝えていく
- ・子どもの発達に合わせた生活力がつくよう園でやっている事、家でやってほしいことを伝えていく

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・家庭教育学級などで、心構えなどを伝えてもらう
- ・健診時に子育て講演会などを行う
- ・健診の時などに、その時期にあった子育ての仕方についてなどの講演会を行う

仕事と子育てへの両立支援のニーズ増加

◎自分たちでできること

- ・休みの日の関わり方の提案
- ・遊びの提供

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・低年齢児保育に対応できる設備と保育士の増加をしてもらう



【Cグループ】

発達が気になる子どもの増加

◎自分たちでできること

- ・発達が気になる子への関わり方について学ぶ ・研修等で学んだことの報告会
- ・発達の特徴を知り、関わり方など支援の仕方について学ぶ ・発達支援について学習する
- ・発達を促す、導く、正しい支援のあり方を学ぶ。保育士 共通理解 十分な話し合いを行う
- ・気になる子への対応（支援）の仕方を園で統一する ・エピソード、記録など勉強会
- ・気になる子について職員間で対応方法を共通理解する
- ・ミーティング等で全職員による共通理解 ・適切な支援の実行

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・保健センターとの連携（健診時のこと） ・保健師との連携、早期発見・早期対応
- ・病院との連携 ・カナリヤの家、保健センターから情報を得たり、関わり方を学ぶ
- ・カナリヤの家や支援コーディネーターとの交流（療育支援の継続、コーディネーターを招く）
- ・保護者が発達について学ぶ場をつくる
- ・保護者に園での子どもの困り感を伝え、理解してもらう
- ・子への対応の仕方や支援計画のアドバイスをもらう ・専門知識のある職員の配置
- ・支援学校との連携（コーディネーター）

子どもたちがのびのびと遊べていない

◎自分たちでできること

- ・Why? 時間? 場所? 遊具? 人数? ・保育の内容を考える
- ・保育園の行事の見直し。どうしたら遊べるか考える ・行事の見直し
- ・戸外での自由遊びの時間を最低限決めて、守れるようにする
- ・戸外遊びの時間を保障する（戸外遊びを最優先） ・外で遊ぶ時間を多くする
- ・子どもたちがのびのびと遊べる時間の確保

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・近隣公園、グラウンド等の活用 ・里山の整備 ・森のようちえん ・川遊び
- ・のびのびと遊べる場をつくる（遊具ではなく、原っぱみたいな広い場所）

外国籍の子ども・保護者への対応

◎自分たちでできること

- ・生活に必要な言葉を覚える（目につく所に貼っておく）
- ・外国の文化について、学ぶ機会をつくる ・簡単な会話ができるよう自主勉強会をする
- ・通訳から日常会話などを学ぶ ・具体的で分かりやすい題出物の展示
- ・言葉で理解できない場合は、絵や記号などにして示していく
- ・日頃から声掛け（身振りなど）をし、信頼関係をつくる
- ・日本の生活習慣などを学ぶ機会をつくることで、理解してもらえるようにする
- ・通訳との共通理解をしておく（児について話し合う時間を持つ）
- ・簡単な外国語を覚え使う（絵、カード等も）

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・通訳に園に来てもらう ・通訳をお願いする
- ・通訳の派遣 ・通訳を増やす
- ・通訳を置く。書類を外国語にしてもらう



保護者の子育て能力・意識の低下

◎自分たちでできること

- ・クラス便りや園便りで、遊び方の紹介等を発信する
- ・親子遊びの場をつくり、子育てのヒントを知らせていく
- ・親へ子どもとの関わり方などを具体的に伝えていく機会をつくる
- ・子育てで何が大切なのか懇親会などで伝え、気づかせていく
- ・保育参加（お母さん先生）に来てもらうよう働きかける
- ・個別で親と話す時間を持つ（個人懇談など）
- ・親（保護者）との十分な話をする場をつくる（懇談会など）
- ・行事などの手紙のひな型をつくっておく

◎その他協力をお願いしたいこと

- ・子育て支援センター、家庭教育学級で子育てについて学ぶ機会をつくる
- ・地域として子育て世帯を見守る仕組み。イベントを行う
- ・BP、NP、乳幼児学級など子育てについて学ぶ場の充実
- ・F0 プランを浸透させ、0 歳からの子育ての重要性を知らせる
- ・初めて子どもを持った母親へのプログラム実施（BP）を健診のような形で参加してもらう
- ・小中高校生時代から F0 プランの中に子育ても組み入れていく

仕事と子育てへの両立支援のニーズ増加

◎自分たちでできること

- ・近居、同居等を祖父母、ママにすすめる
- ・連絡帳で児のがんばっている様子などを伝え、子どもに目を向かせる

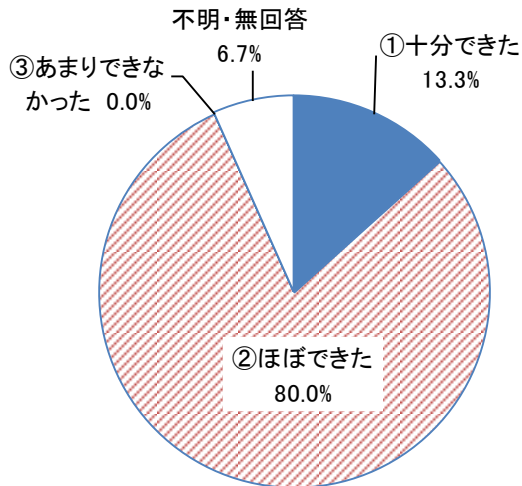
◎その他協力をお願いしたいこと

- ・2 年間は育児休業できるよう企業への働きかけ
- ・2 歳までは家庭で育てられるような休業制度を企業に求める
- ・子どもが病気の時、休みがとれるよう企業（職場）の理解
- ・事業所内に保育所をつくり、安心して働けるようにする
- ・低年齢児に対応できる保育室の整備
- ・企業に短時間勤務をとりやすくしてもらえるよう啓発する
- ・子育て世代への経済的支援
- ・低年齢児に対応する保育士増員

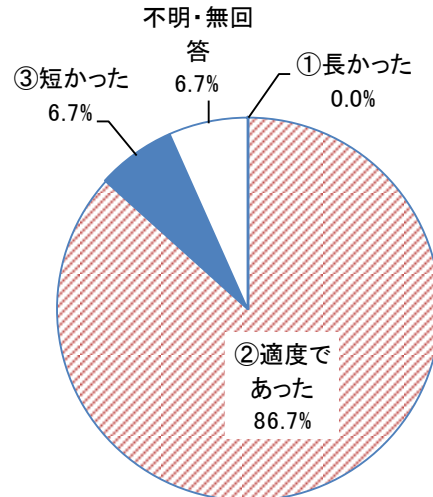
3 参加者の意見・感想

振り返りシートの提出数：14名

【ワークショップの参加経験はありますか】



【本日のワークショップはいかがでしたか】



【本日のテーマについて、言い足りなかったことや、追加意見】

- ・小中高校の教育について。F0プランの中に親になる学び経験をする場があるのもいいのでは。親になってからの親支援ばかりでなく、人として子育てを学ぶ場があってもいいのでは
- ・子育ての楽しさについて保護者に伝えていく
- ・子ども、保護者の支援に関わる職員の確保
- ・スマホでの情報提供、その日の保育内容、豆知識など

【その他、ご意見について】

- ・いろいろな意見が出て、自分自身もとても勉強になりました。
- ・日頃から今回のテーマについて振り返り、改善案を出していくことが大切だと思いました。思っているだけでなく、発信・実行も
- ・課題については考えることはよくあるが、その解決策まではなかなか具体的に考える機会がなかったので、よい機会になった
- ・私達の意見だけでは、うまく言葉にできなかったこと、表せなかったことが、他のグループの発表を聞き、分かってきました
- ・いろいろな意見を聞くことができ、特に若い人達の柔軟な発想に感心をしました。どんどん取り入れていけるといいです
- ・様々な意見を聞くことができて勉強になった
- ・若い世代、中堅保育士の方々が良く考え、理解していることに感激した
- ・勉強もしたい人がいない、時間がないということで、現状を変えるには、根本的な改革が必要と思う
- ・話し合いの内容が濃く、十分に話し合えないテーマもあった
- ・自分たちでできることがたくさんあると感じたが、それを行うだけの時間の余裕は今の状況ではな

いかなと思う

- 今日、意見に出たことを実現に向けて動いていけるとよい
- 3つのグループとも共通点が多いので、みんな思うことや同じ考えなのだと改めて思いました